

幼児Canぶ研究会 活動報告

木戸 貴弘
中山 正剛

1. こども幼児Canぶ研究会の活動について

私たち「こども幼児Canぶ研究会」は、2021年度「2年生40名、1年生51名（計91名）」で活動を行なってきました。例年であれば、別府市青年会議所やABC野外活動センターなどが主催する子どものキャンプ活動や野外活動の補助や企画運営を行なってきましたが、今年度はコロナ禍の影響により、様々なイベントが中止となり、学外での活動を行なうことができませんでした。そのような中でも、学内で実施できるCanday（研究会メンバーのチームワークを築くためのレクリエーション活動）を企画し実施しました。

2. 2021年度の主な活動

こども幼児Canぶ研究会の1年間の活動を以下に示します。

月日	活動内容
4月21日	研究会紹介
7月21日	Canday「夏の大運動会」
12月1日	winterフェスティバル2021での「すいか泥棒」のオペレッタ
12月15日	Canday「冬の大運動会」

3. 今年度の活動を振り返って

(1) 幹部の感想

・私は、コロナ禍で活動の運営するのがとても大変だったと感じました。1年生のころは、行事がなくなり、研究会の活動も一回しかで

きませんでした。その中でも、先輩方が工夫を凝らしとても楽しい活動ができました。私たちはそれを引き継ぎ、活動をしてきましたが、実習や補講で忙しい中、日程が合わずあまり多くの活動ができませんでした。私的にはもう少し活動をしたかったです。しかし、数少ない2回の活動でよりみんなに楽しんでもらおうと幹部や担当の先生方と話し合いし活動を考えました。みんなが安全に楽しめるように健康チェックや手指のアルコール消毒、密集を避けるなどに配慮しました。その中で1年生・2年生がたくさんコミュニケーションをとれるような活動を取り入れました。その結果、参加してくれた研究会の人には、とても楽しかったと言ってもらいました。ウインターフェスティバルでは、短い期間で昼休みを削って練習した結果研究会発表で優勝することができました。運営をしていて、やはり楽しんでもらい、喜んでもらったのは嬉しかったです。せっかく、研究会に入ってもらって1回も活動に参加できなかった人にはとても申し訳ない気持ちでいっぱいです。来年も活動していく中でうまくいかないことがあると思いますが、研究会の人と協力してより、幼キャンを盛り上げてください。

・私が研究会に入ったきっかけは、とても楽しそうだったからです。しかし、コロナの影響で、1年生の時も2年の時も活動自体は少なかったです。その少ない活動で、いかにみんなと交流するか、どうやったらみんなと楽し

めるかを考えるのはとても難しく大変でした。そのような中で、今年はフェスティバルでのスイカ泥棒の発表やCandayを2回開催という楽しい思い出ができました。この研究会は人数も多く、ボランティア等で外部の人との交流もあり、保育者や教育者として働くうえで役に立つ経験がたくさんできる研究会だと思います。私たちの活動自体は少なかったけど、それでも幹部の役割を通して、たくさんのことを学べたと思います。なにより楽しかったです。

(2) 顧問より

今年の2年生は、入学当初よりコロナウイルス感染症の影響を受け、大学生活では様々な困難を強いられたと思います。研究会活動においても、多くの制限を受け自由な活動も難しかったかと感じます。加えて、幼Canは参加所属する人数も多く、幹部の学生にとっては研究会をまとめていくのも一苦勞だったと思います。そのような中で、winterフェスティバル2021で披露した「スイカ泥棒」では、優秀賞を獲得し私自身も大変嬉しく思いました。活動は少なかったですがみなさんの力を強く感じることができました。コロナ禍で過ごした大学生活を財産にして、これからの未来に向かって頑張ってください。

また、1年生は4月から最上位学年として後輩を引っ張っていく立場になります。人数は多いですがまだまだパワーを出し切れていないと思います。研究会に所属しているという自覚を持ち、何事にも積極的に取り組んでプラスαの力を身につけて欲しいと思います。コロナの影響はどこまで続くのか、先の見通しが立たないところですが、みなさんの団結力と主体的な活動が、こども幼児Canぶ研究会をさらに盛り上げ、ひいては学校全体を盛り上げてくれることを期待しています。



winter フェスティバル 2021 「スイカ泥棒」



Canday 運動会の様子